

「卓球の火」を消さない!

全国で、インターハイや全国中学校大会の代替大会をはじめ、大小の大会、あるいはイベントが少しずつ増えてきた。今回は、東北と関東で行われた5つの大会(イベント)を紹介する。

高校生

2020 Tokyo Thanks Match

女子 8月9・11~14日 東京都

●会場：9日／立川市柴崎市民体育館・武蔵野高校
11-14日／エスフォルタアリーナ八王子

男子 8月11~14・18~20日 東京都

●会場：エスフォルタアリーナ八王子

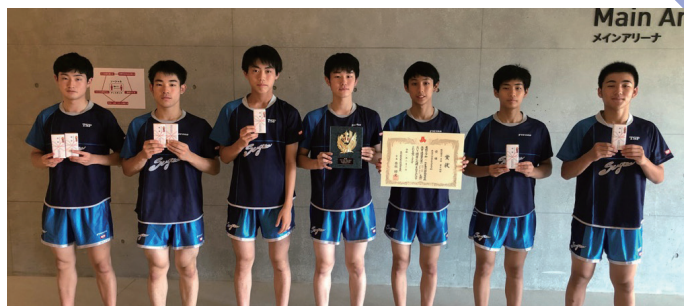
東 京都内の約140校の高校が集まり、男子は述べ約740人、女子は約300人が参加したインターハイ代替大会。

密を避けるために女子は5日間、男子は7日間かけ、さらに1日のうちでも前半と後半に分けて入れ替え制を取り、団体戦とシングルスが行われた。

代替大会は平日開催は認められず、土日祝日と、都立高校の夏休みの日程の中で行うことが条件だったため、東京高体連卓球男子専門部委員長の平雅行氏(詳細は右ページ参照)らが音頭を取り、まずは会場の確保に奔走。幸か不幸か、私学大会や国公立大会が中止となったため、一部、その日程を借りて実施することができた。



↑最終日(男子シングルス)の選手宣誓を行った足立学園の小林竜也選手



↑男子団体優勝の東海大学菅生高等学校の選手たち

東京都独自の取り組みとして、スマートフォンでQRコードを読み取るだけで出席確認ができる方法を採用したり、カウンターも使用せず指で得点を数えるなどの工夫をして、全8日間の日程を無事に終えた。

多くの学校、選手が参加したが、実際は男子は1・2年生の場合は各学校4名以内という人数制限があった中での開催だった。

男子団体優勝は東海大学菅生高校、女子は武蔵野高校。シングルスは男子が高橋天馬(東海大菅生高)、女子は花井可奈(武蔵野高)がそれぞれ優勝を果たした。



↑卓球台は間隔を4m空けて配置。(写真は女子団体戦準々決勝での挨拶の場面)



↑女子団体戦の表彰の様子

中学生

高校生

東日本卓球練習会

8月10日

宮城県

●会場：大崎市三本木体育館

青 森県 岩手県 宮城県 秋田県の東北4県から、中学3年生~高校3年生までの女子72人が参加した卓球練習会。高校12校と中学3校、クラブ1チームが参加した。

種目は女子シングルスのみで、高校3年生と、高校2年生以下に分かれ、グループ予選リーグを経て、決勝トーナメント方式で優勝を争った。

同練習会は、実は今回で16回を数える伝統の催し。相次ぐ大会中止の中、高校選抜やインターハイ出場を目指していた3年生のために、聖ウルスラ学院英智、聖和学園、迫桜、山形城北、桜の聖母、郡山女子大付属、磐城第一、宮古商工、各校の指導者たちが連絡を取り合い、練習会実現にこぎつけた。高校3年生の部は、今回特別に新設されたカテゴリーだ。

参加した選手たちは、久しぶりの試合で、最初は緊張した面持ちだったが、次第に慣れて普段の感覚が戻ったようで、あちこちで熱戦が繰り広げられた。

高校2年生以下の部では、佐藤美佐希(宮城・秋保中3年)が中学生で唯一、決勝トーナメントに進出し、話題を呼んだ。



↑参加者の中学生・高校生たち。高校3年生にとっては、思い出の一日となった